

# 八王子市社会福祉審議会 児童福祉専門分科会

## 令和8年度（2026年度） 第1回会議 次第

令和8年（2026年）5月15日（金）  
18時00分～20時00分  
八王子市役所 801会議室

### 1 開 会 【18：00】

- （1）部長挨拶
- （2）子ども家庭部長あいさつ
- （3）新任管理職及び関係所管課の紹介
- （4）資料確認

### 2 報告事項【18：10】

- （1）保育施設の受入状況について【保育幼稚園課】
- （2）小児・障害メディカルセンター等の移転・建替えについて【子どものしあわせ課】

### 3 議題【18：30】

- （1）令和7年度（2025年度）分八王子市子ども・若者育成支援計画の取組状況及び評価について【子どものしあわせ課】

※ 基本施策4及び1…基本施策ごと説明及び議論

### 4 そ の 他 【19：45】

※次回の会議内容及び日程の説明

### 5 閉 会 【20：00 閉会】

#### 【配付資料】

- 資料1 委員名簿
- 資料2 保育施設の受入状況について
- 資料3 小児・障害メディカルセンター等の移転・建替えについて
- 資料4 令和7年度（2025年度）子ども・若者育成支援計画 点検評価報告書（案）（基本方針1・4）
- 資料5 点検評価報告書のページの見方
- 資料6 会議日程一覧

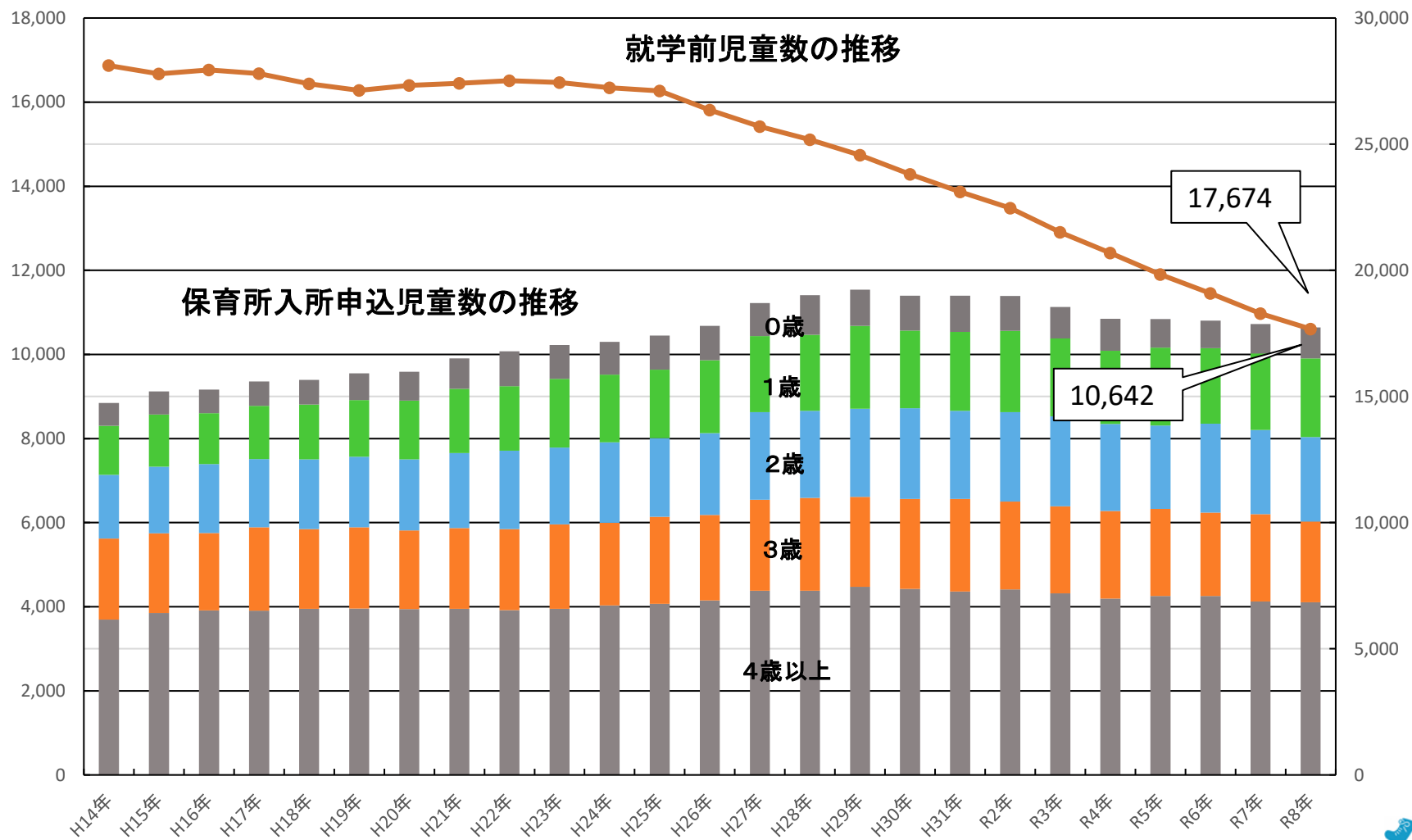
# 保育施設の受入状況について

令和8年(2026年)5月15日  
子 ども 家 庭 部



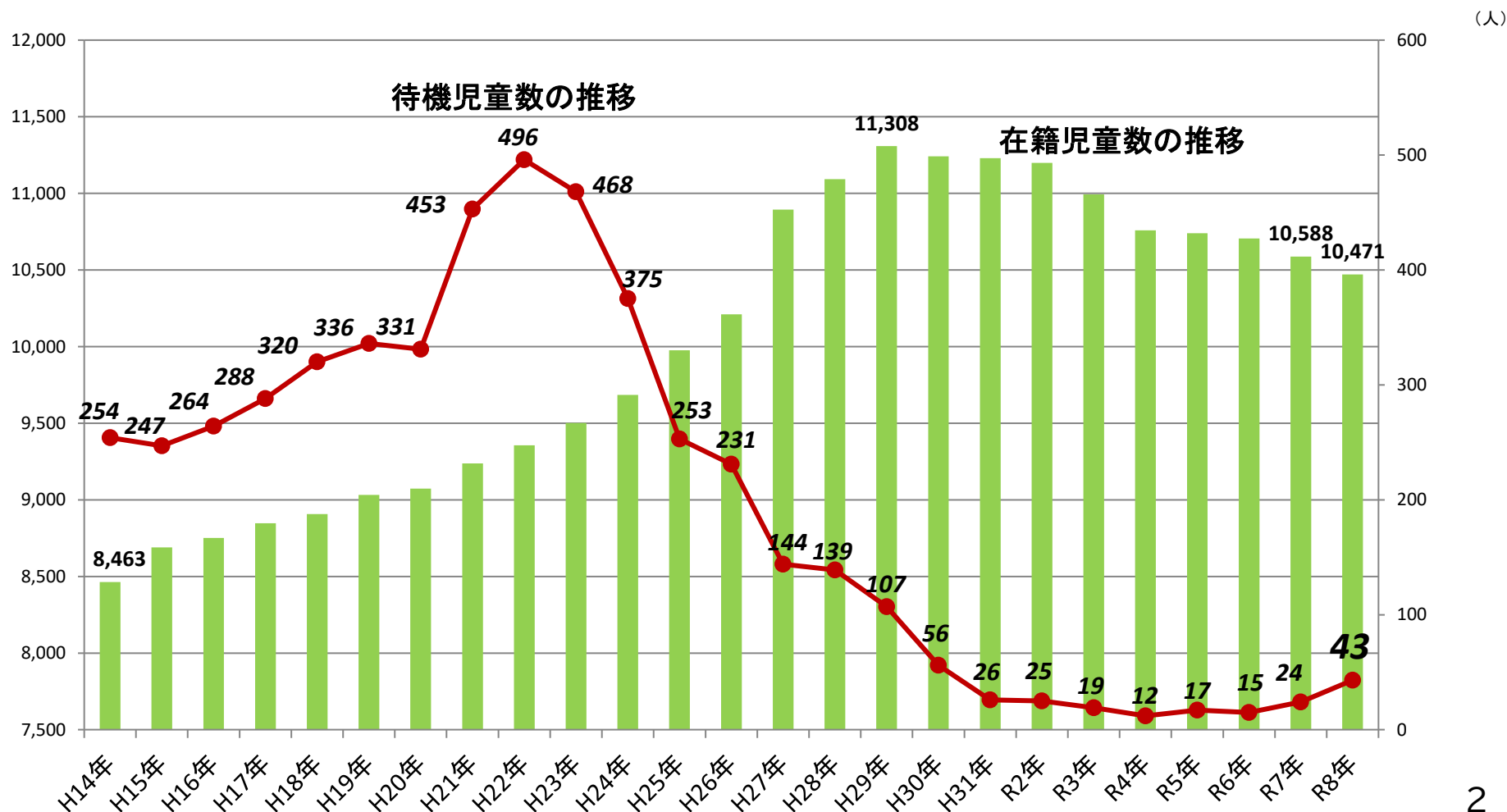
# 1 就学前児童数と保育所等申込児童数の推移

- 就学前児童数(0～5歳)は、前年に比べ617人減の17,674人(3.3%減)
- 保育所等申込児童数は、前年に比べ83人減の10,642人(0.7%減)



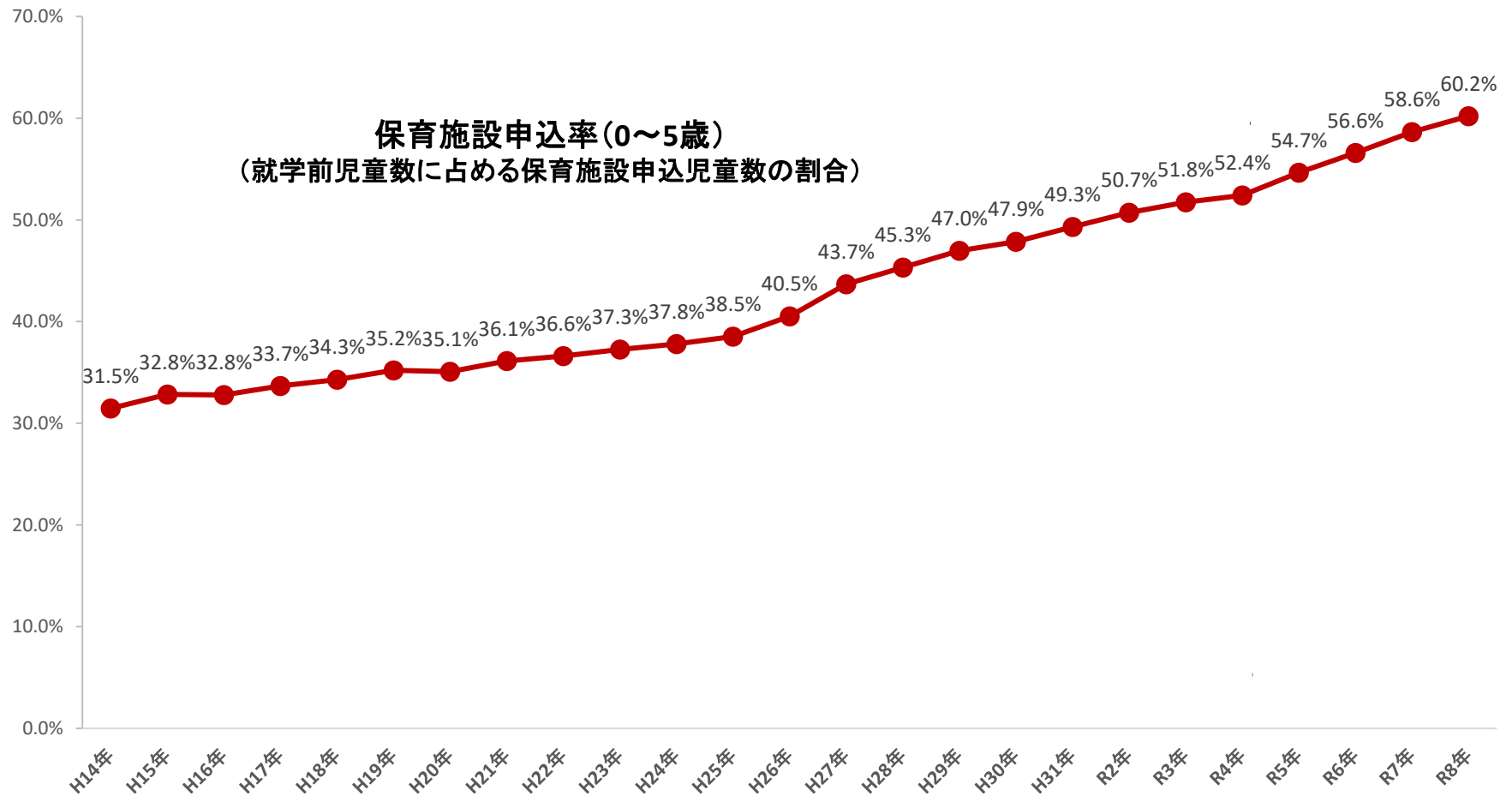
## 2 保育所等在籍児童数と待機児童数の推移

- 保育所等の在籍児童数(利用児童数)は、前年に比べ117人減の10,471人(1.1%減)
- 保育所等の待機児童数は、前年に比べ19人増の43人



# 3 保育所等申込率の推移

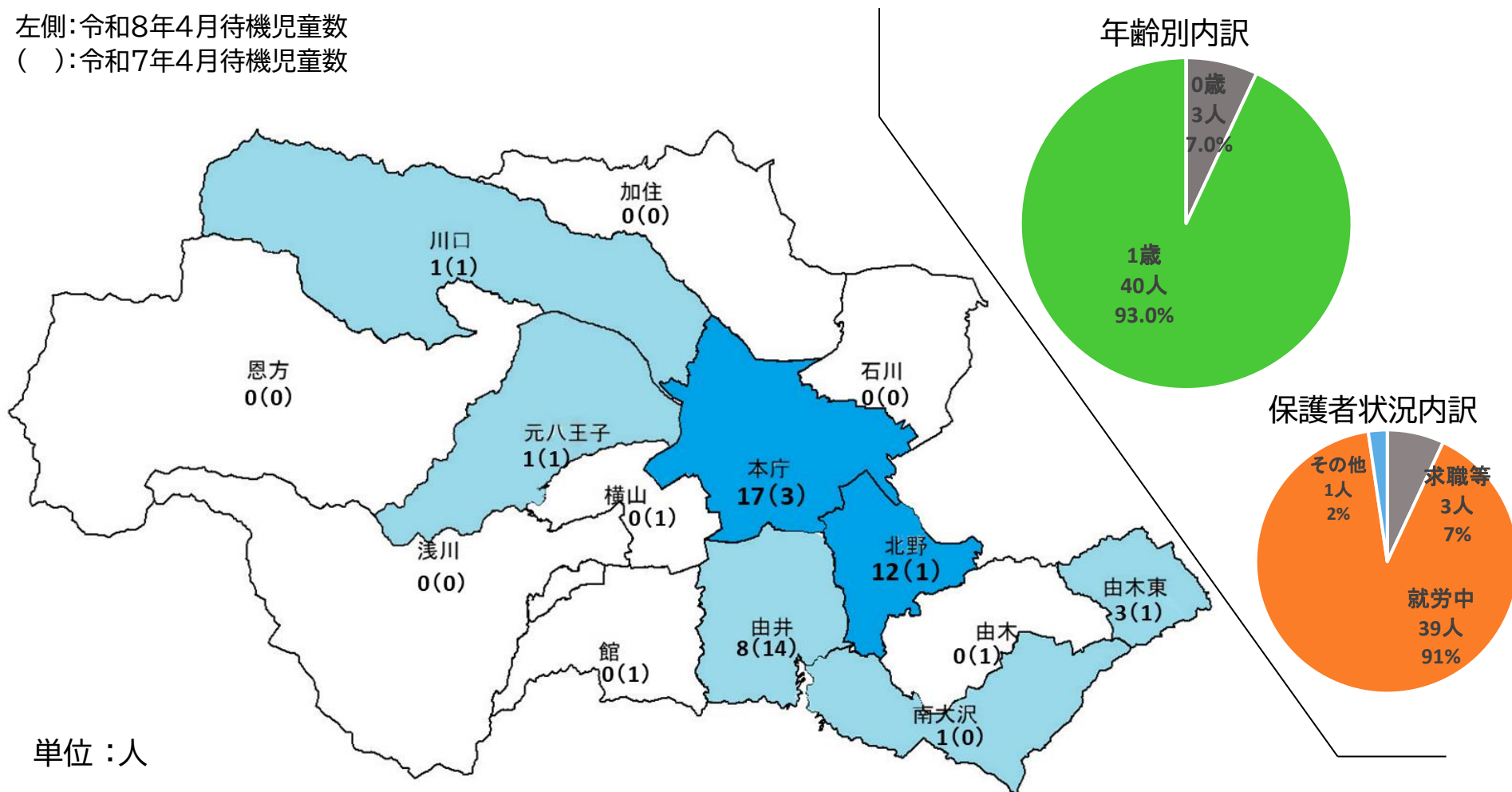
○保育所等申込率(0～5歳)は、前年に比べ1.6ポイント増の60.2%



# 4 保育所等待機児童の分布とその保護者の状況

○待機児童43人の地域別分布状況及びその保護者の状況は、下図のとおり

左側:令和8年4月待機児童数  
( ):令和7年4月待機児童数



# 「小児・障害メディカルセンター」等の 移転・建替えについて

令和8年(2026年)5月15日  
社会福祉審議会児童福祉専門分科会



# 「小児・障害メディカルセンター」の概要

平成22(2010)年3月の都立八王子小児病院の移転に伴い、土地・建物を東京都から譲り受け、23年4月に開設



- 所在地: 台町四丁目33-13 (西八王子駅徒歩9分)
- 規模: 鉄筋コンクリート造3階建て
- 敷地面積 約3,760㎡
- 延床面積 約5,700㎡

◆ 敷地内建物の約8割を占める本館(療育診療棟)は昭和55年築。令和12(2030)年度に耐用年数50年を迎える。

## ◆ 現在の主な事業と施設の位置づけ

### ○ 医療施設【診療所】

|                     |             |
|---------------------|-------------|
| 本館<br>1F            | 一般小児外来診療所   |
|                     | 障害者(児)外来診療所 |
|                     | 療育診療電話相談    |
| 夜間<br>救急<br>棟<br>2F | 障害者歯科診療所    |
|                     | 休日歯科応急診療所   |

### ○ 障害福祉施設

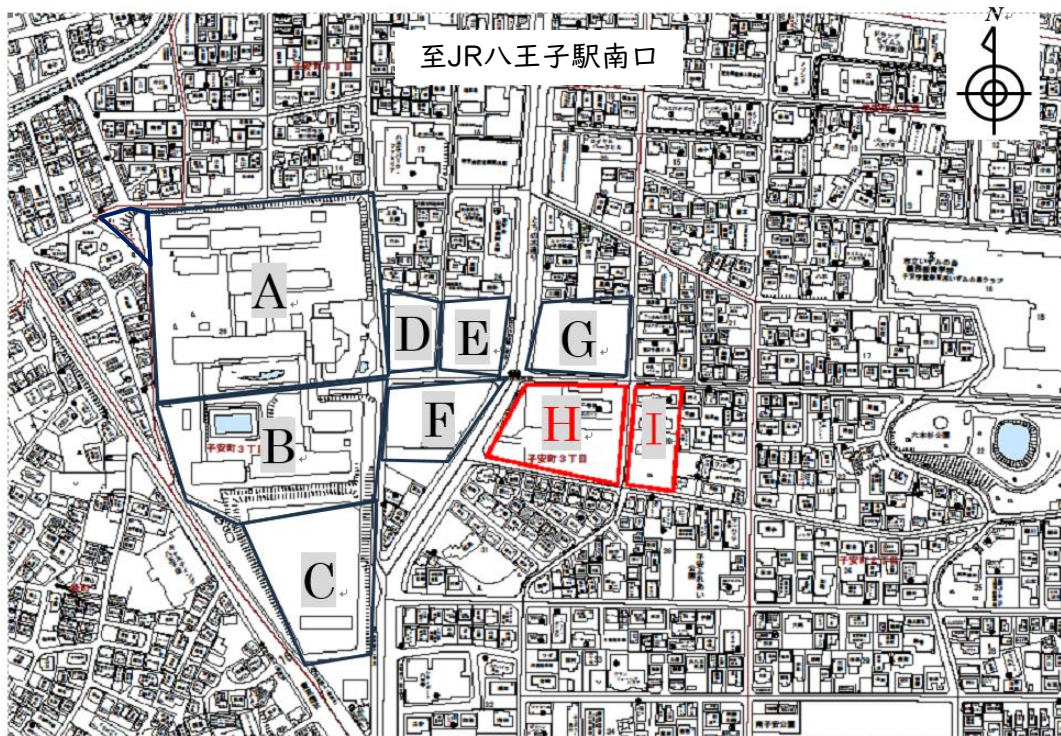
|          |                |
|----------|----------------|
| 本館<br>3F | 発達障害児支援室「からふる」 |
| 本館<br>2F | 重症心身障害者通所施設    |
| 本館       | 相談支援室ぱれっと      |

【その他】売店 ふらさ・de・かたくり(障害:就労継続支援B型)

# 八王子医療刑務所用地の一部(H・I)について

## 八王子医療刑務所用地(国有地)の一部(H・I)

- 所在  
子安町四丁目580番1、589番21(地番)  
子安町四丁目28番、29番 (住居表示)
- 面積  
約7,000m<sup>2</sup>  
※内訳( H:約5,000m<sup>2</sup> I:約2,000m<sup>2</sup> )
- 位置図



※A~Gは集いの拠点  
として整備

# 心身障害者福祉センターの概要

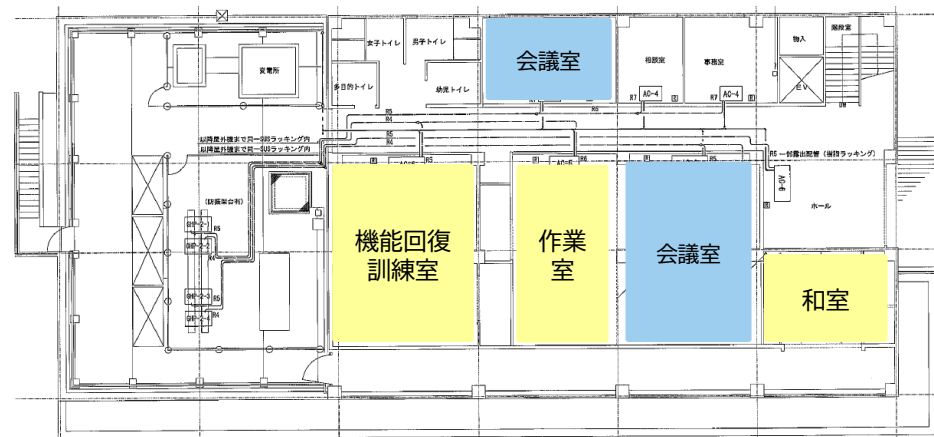
|      | 心身障害者福祉センター                                                                             |
|------|-----------------------------------------------------------------------------------------|
| 所在地  | 台町二丁目7番22号                                                                              |
| 開設日  | 昭和55年4月1日                                                                               |
| 敷地面積 | 1,858.60㎡                                                                               |
| 延床面積 | 407.41㎡（2階部分ほか）                                                                         |
| 根拠法令 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・身体障害者福祉法</li> <li>・八王子市心身障害者福祉センター条例</li> </ul> |
| 事業内容 | 更生相談、機能回復訓練、ことばの教室、失語症言語リハビリ、作業訓練、講習会                                                   |



1階（すぎな愛育園）



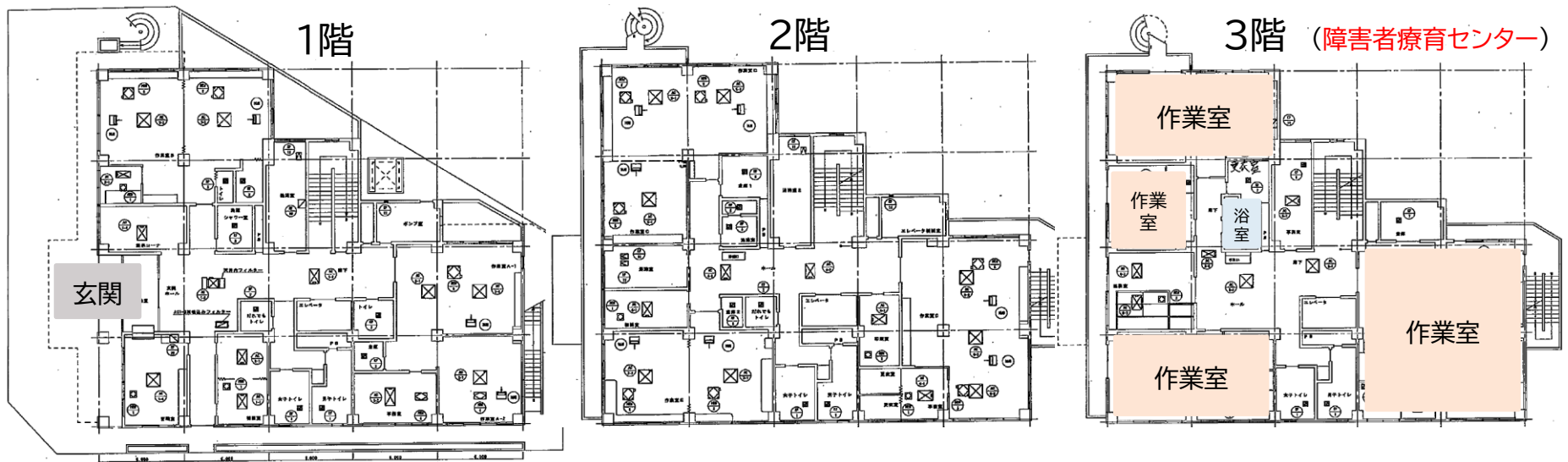
2階（心身障害者福祉センター）



# 障害者療育センターの概要

## 障害者療育センター

|      |                                                                                                                                            |
|------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 所在地  | 長沼町1306番地4                                                                                                                                 |
| 開設日  | 平成12年7月3日（建物は平成4年開所）                                                                                                                       |
| 敷地面積 | 990.55㎡                                                                                                                                    |
| 延床面積 | 593.96㎡（3階部分ほか）                                                                                                                            |
| 根拠法令 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律</li> <li>・八王子市障害者療育センター条例</li> <li>・東京都重症心身障害児（者）通所事業等実施要領</li> </ul> |
| 事業内容 | 重症心身障害者通所事業、生活介護                                                                                                                           |



# スケジュール

## 令和7年度

国有地（H・I 地区）の留保に向けた国との調整  
医師会・歯科医師会など関係者への情報提供  
障害者団体等との調整

## 令和8年度

10月 国有地利活用方針（案）策定検討会の設置



子ども家庭部や学校教育部等も参加  
（分野横断的な検討）

障害のある子ども・若者への支援を  
充実するための検討を推進

第2期子若計画  
「基本施策14」に対応

# 子ども施策との連携

障害者療育センター

心身障害者福祉センター

小児・障害メディカルセンター

移  
転  
・  
複  
合  
化

障  
害  
・  
療  
育  
に  
係  
る  
支  
援  
機  
能  
の  
拠  
点  
化

桑都の杜「八王子駅南口集いの拠点」  
との連携強化

【災害時における連携】

発災時、災害対策拠点となる「桑都の杜」の後方支援機能（小児・障害児（者）への臨時的な災害機能）を果たす

【家族サポートの推進】

障害に対する正しい知識の普及・理解や市民、大学、企業との「つながり」を創出

連  
携

## 【メリット】

### 1. 設備や機能の共有によるサービスの拡充

別々の施設にあった設備を相互利用できやすくなるため、より多くのニーズに対応できる

### 2. 成長過程に応じた一体的な支援の提供

障害児が成人する場合でも、切れ目のない支援や訓練を受けることができる。

### 3. 各施設職員の連携強化、交流による支援力向上

支援に関する連携がしやすくなるほか、合同研修、業務応援などの垣根を越えた連携ができる。

### 4. 利便性の向上

交通アクセスが向上し、支援や訓練の効果を上げることができる。

など

※今後ご意見いただきたいこと

総合的な支援を提供する視点から、

- ・どんな機能を加えるとよいか
- ・連携が必要な取組はなにか

など

基本方針

基本施策

1

ミライを担う子ども・若者の育成  
子どもの権利を大切にすまちづくり

めざす姿

すべての子どもたちが、人として尊ばれ、安心して育つ環境が保障されており、自分らしく成長しています。  
子どもの意見が尊重され、子どもの生活する地域やまちづくりに反映されており、子ども自身がまちづくりに参加できています。

令和7年度（2025年度）の主な取組

|                        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
|------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 施策1                    | 子どもの意見を大切にすまちづくり                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| ● 市政への子どもの参画の推進としくみづくり | <p>■ 「八王子はわたしたちがつくるまち」を全体テーマとし、8月31日（日）に子ども☆ミライ会議を開催しました。自分たちに何ができるかをワークショップで話し合い、意見としてまとめました。市役所や図書館を利用して、調査をする子もいました。当日は、各自市長・教育長に意見発表を行い、コメントを頂きました。（ワークショップ2回、子どもの委員23名）</p> <p>■ 高校生によるまちづくり提案発表会後、市関連所管と発表生徒との意見交換を実施し、一部を市の施策に反映しました。</p> <p>①八王子北高校「カラスにごみを荒らされてしまう」→2026年度版「ごみ・資源物収集カレンダー」に、カラス被害への注意喚起記事を新たに掲載</p> <p>②翔陽高校「自転車事故を減らすために」→子ども目線で安全マップ作りができる東京都のWebサイトや、はちびバ川口での子どもが感じる危険箇所をマップに落とし込む取組みを、「青少年健全育成の基本方針 令和8年度重点目標の周知リーフレット」に掲載</p> <p>③南多摩中等教育学校の「高尾山における外国人向け学生ガイド」→高尾山ガイドボランティア事前研修会に、学校での活動の経験談を参加者に伝える機会を設けた。</p> <p>④八王子東高校「八王子市西部集結計画」→R8年2月の恩方中学校区地域づくり推進会議に参加し、地域の方々と直接意見交換を行った。</p> <p>・（今後反映）八王子北高校「観光客を増やすには」→アニメを活用した聖地ビジネスについて市の観光課がアイデアをヒアリング。（令和8年度以降の施策に活かしていく予定）</p> |
| ● 子ども・若者の声の発信          | <p>■ 大学コンソーシアム八王子加盟校の学生が日ごろの学びの成果や地域課題の解決へ向けた提案を行う学生発表会を行いました。（発表件数：276件（口頭発表138件、ポスター・展示発表110件、提案発表28件、参加者919名（16大学等））</p> <p>■ 市内の高等学校6校における「総合的な探究の時間」にて八王子の課題解決に向けて取り組んだ生徒が、その学習成果を市に発表する「高校生によるまちづくり提案発表会」を、対面形式で開催しました。（ポスター発表：23件、口頭発表：6件（各校1件）、参加生徒数：82名、意見交換会参加生徒数26名。）また、大学コンソーシアム八王子主催「学生企画事業補助金 成果報告会」のポスター発表を合同開催し、7校の大学生・高専生がポスター発表に参加しました。生徒が大学生・高専生や地域活動に従事する大人と対話が行える機会となりました。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| 施策2                    | 子どもの権利を守る取組                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| ● 子どもが相談しやすい環境づくり      | <p>■ 児童・生徒に相談できる大人が1人でもできるよう、学期に1回「児童・生徒が相談できる大人に関する調査」を実施して児童・生徒の実態を把握することで、相談体制の充実をはかりました。また、週時程に1コマ「いじめ対応のための時間」を確保し、個人面談を実施するなど、児童・生徒一人ひとりと直接関わる機会を設定しました。</p> <p>■ 総合教育相談室内に設けている「こども電話相談」（子ども専用）の窓口において、いじめを含めた子どもからの相談に心理相談員が対応しました。（こども電話相談の件数：17件）</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| ● 児童虐待やいじめ被害などの防止      | <p>■ 相談窓口を一覧にした「不安や悩みがあるときは …一人で悩まず、相談しよう」八王子市版を作成し、長期休業日開始前に全児童・生徒に配布及び児童・生徒用のポータルサイトに掲載しました。また、「総合教育相談ガイド」を作成し、新入学児童・生徒を通して、家庭に配布するとともに、学校、市の関係所管に周知しました。</p> <p>■ いじめ相談電話を設置し、いじめに関する相談を受けました。相談者の意向に寄り添い、必要があれば教育委員会と連携し、解決に向けてできることを考えてきました。令和7年度（2025年度）は、12件の相談を受けました。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |

|                        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ● 不登校の子どもの教育の機会と居場所の確保 | <p>■ 東京都事業を活用し、不登校児童・生徒が登校したときに別室において対応する支援員を配置しました。(配置校数:小学校13校、中学校12校)</p> <p>■ はちっこルーム(VLP)では、不登校の中でも深い層である、引きこもりがちの児童・生徒を対象に、スクールソーシャルワーカーが本人、保護者と面談を行ったうえでアカウントを配布し実際にバーチャル空間から学習コンテンツにアクセスしたり、スクールソーシャルワーカーとの相談を実施しました。→アカウント配付数:延92(内訳:小学校40、中学校49、義務教育学校3)</p> <p>■ 小中学校と連携し「つながるプラン」に基づき不登校の子どもたちを受け入れ、はちびバ職員の寄り添った支援を行いました。<br/>不登校の保護者向け「保護者サロン」において、若者総合相談センター及びはちびバについて周知を図りました。</p> |
|                        | <p>● ヤングケアラーへの支援</p> <p>■ ヤングケアラーの周知・啓発のため、市内公立小・中学校やはちびバ(八王子市子ども・若者育成支援センター)、市民センターなどの関係機関に、啓発ポスターの掲示やチラシの配布を行いました。(市内公立小学校全校児童にチラシの配布:約25,000枚、市内公立小・中学校にポスター掲示依頼:各校2枚ずつ(108校)、市民センター、地域事務所等関係機関にポスター掲示依頼:約100枚)</p>                                                                                                                                                                            |

施策3

子どもの権利を広めるための取組

|                  |                                                                                                                                                                                                                                                        |
|------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ● 子どもの権利の理解促進や周知 | <p>■ 宣言のよりどころである、子どもの権利条約の中に示される「参加する権利」を具現化した「子ども☆ミライ会議」(8月31日・学園都市センター)を開催し、子ども委員が、「八王子市」について学びながら、自分たちに何ができるかをワークショップで話し合い、まとめた意見を市長・教育長を前で発表しました。</p> <p>■ 全教育活動を通じて道徳教育や人権感覚を養う指導を実施しました。また、人権尊重教育推進校の研究成果を市内全校に周知し自分を大切に、他者を思いやる心の育成をはかりました。</p> |
| ● 子どもの権利保障に向けた取組 | <p>■ 令和8年度から児童福祉専門分科会にて検討を行う方針を決定しました。</p>                                                                                                                                                                                                             |

| 指標<br>の実績 |   | 指標                            | 策定時<br>(2023年度) | 2025年度<br>実績値 | 2026年度<br>実績値 | 2027年度<br>実績値 | 2028年度<br>実績値 | 2029年度<br>実績値 | 目標値<br>(2029年度) |
|-----------|---|-------------------------------|-----------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|-----------------|
|           | 1 | 子ども・若者との意見交換の機会の回数            | 14回             | 16回           |               |               |               |               | 20回以上           |
|           | 2 | 相談できる大人が1人以上いると回答した小学生・中学生の割合 | (小学生)<br>99.4%  | 99.2%         |               |               |               |               | 毎年度、前年度を上回る     |
|           |   |                               | (中学生)<br>98.9%  | 99.1%         |               |               |               |               |                 |
|           | 3 | 自分という存在を大切に思っている児童・生徒の割合      | (小5)<br>89.1%   | 89.0%         |               |               |               |               | 毎年度、前年度を上回る     |
|           |   |                               | (中1)<br>88.5%   | 88.5%         |               |               |               |               |                 |
|           |   |                               |                 |               |               |               |               |               |                 |
|           |   |                               |                 |               |               |               |               |               |                 |
|           |   |                               |                 |               |               |               |               |               |                 |
|           |   |                               |                 |               |               |               |               |               |                 |

自己評価

|   |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
|---|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| B | <p>子ども☆ミライ会議や高校生によるまちづくり提案発表会、大学コンソーシアムによる学生発表会などを通じて、子ども・若者が自ら考え、意見を発信する機会を確保し、提案の一部を市の施策や啓発物に反映しています。</p> <p>また、学校における個別面談の実施やスクールソーシャルワーカーの定期巡回、オンラインを活用した不登校児童・生徒への支援などに取組んできたことで、「相談できる大人がいる」と回答した児童・生徒の割合は高い水準を維持しており、一定の成果が見られます。</p> <p>子どもの権利に関する理解促進に取り組んだ一方、制度的な権利保障のあり方については、今後の検討課題として整理しています。</p> |
|---|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

児童福祉専門分科会による評価

|  |  |
|--|--|
|  |  |
|--|--|

|       |  |
|-------|--|
| 今後の取組 |  |
|-------|--|

すべての子どもが楽しみながら社会性・創造性を育めるよう、文化芸術やスポーツなど様々な体験機会が十分に確保されています。若者が社会参加・社会貢献活動を通じて同世代や多世代の交流を行い、地域とのつながりが作られています。子ども・若者は、いろいろな人との出会いや豊かな経験を重ねていく中で、まちへの愛着を深め、地域社会の大事な一員として、自立に向けた生きる力を育んでいます。

#### 施策4 身体を使った遊びや体験機会の充実

##### ●本市の自然を活かした遊びや体験活動の充実

■ 浅川で、川遊びの楽しさを体験する「ガサガサ探検隊」を実施しました。また、令和7年度は大学生中心に広くボランティアスタッフの募集を行い、当日は51名のボランティアスタッフの参加もありました。(子ども参加者:74名、大人参加者:69名)

■ 身近な自然に気づくことを目標に、小学校近くの指定緑地にて生き物観察を実施。緑地での発見や学びを下級生向けに伝えるため、児童自身でまとめ発表用資料を作成しました。(9/4、9/25: 榎原小学校栽培委員会所属児童・教員(講師:長池公園)、3/3、3/4: 榎原小学校3年児童(計44名)及び教員2名(講師:長池公園))

■ 自然を活用した「自然体験講座」及び環境学習支援として市内の河川を活用した「川の学習」、緑地や里山をフィールドとする「みどりの学習」を実施しました。(自然体験講座:15回、川の学習:23回、みどりの学習:5回)

■ 農業体験事業を実施しました。  
稲作体験:14組44名、ジャガイモ掘り:27組95名、サツマイモ掘り:20組55名、ブルーベリーの収穫体験:12組32名、野菜の収穫体験(7/30)12組32名(12/6)7組23名、搾乳体験:北野子供会・長沼子供会30名、長池小学校 小学1年生36名、式分方小学校 小学1・2年生83名、由木中央小学校 小学2年生83名

##### ●身体を使った遊びやスポーツができる環境づくり

■ 身近な場所でスポーツができるよう、総合型地域スポーツクラブ等の活動を支援したほか、ポッチャの体験会やネオテニス教室、バラスポーツ体験会などのスポーツイベントを開催しました。

■ 「体操 JAPAN OPEN 2025開催に伴う体操教室」や「二人のオリンピックとのたたみふれあい教室」に市内の小中学生を無料で招待し、子どもたちがスポーツをする機会や世界で活躍してきたアスリートとの交流の機会を創出しました。

■ 全小・中学校及び義務教育学校において、各学校が作成した体力向上推進計画に沿って取組を進めるとともに、オリンピック・パラリンピック教育を「学校2020レガシー」として継続実施し、運動に親しむ態度の育成と健康の保持増進・体力向上をはかりました。

■ ボール遊びのできる公園として36公園を紹介するとともに、公園におけるボール遊びの課題について検討するため、市民・関係各団体等と意見交換を行う「公園におけるボール遊び意見交換会」を実施しました。

#### 施策5 豊かな感性を育てる遊びや体験機会の充実

##### ●文化芸術に関する多彩な遊びや体験活動の充実

■ 「トイ♪トイ オーケストラ!」を開催し、オーケストラを実際に鑑賞する機会の少ない子どもたちに、CDやテレビで味わうことのできない、生のオーケストラの高度で大迫力な感動体験を提供しました。(満足度:97.7%)

■ おはなし会・一日図書館員をはじめとした図書館に親しめる各種イベントや、図書館周辺の公園などを活用した、公園などで実施されるイベントとも協働した出張図書館であるパークライブラリーを開催しました。(図書館主催おはなし会参加人数(9館合計):3513人、パークライブラリー参加人数:1,698人)

##### ●八王子の歴史や伝統文化に触れる機会の充実

■ 桑都日本遺産センター 八王子博物館(はちはく)では、本市の歴史や日本遺産構成文化財等をテーマとした展示のほか、紙芝居の上演や八王子城跡からの出土品にちなんだ製作体験などのイベントを定期的に開催し、郷土の歴史を多方面から学べる機会を充実させました。

■ 多様な体験活動の機会を提供し、学校における体験活動の充実を図ることを目的に、市立学校のすべての児童・生徒が「日本遺産」に関する体験活動を通して、市全体の歴史文化を学ぶことで新たな魅力や価値に気づき、郷土愛の醸成につなげることができるよう、八王子市の特色を活かした「八王子市版『笑顔と学びの体験活動プロジェクト』」プログラムメニューを用意し、実施しました。

■ 高尾山口駅周辺において、中学生・高校生が外国人観光客にパンフレット等を手渡ししながら、日本遺産ストーリーや構成文化財を紹介するとともに、市内のおすすめスポットをPRしました。また、ガイド実施にあたっては、研修会及び成果発表会を行い、日本遺産の理解を深めました。(ガイド実施回数:全12回、延べ72名参加)

施策6 若者の活動・体験機会の充実

- 若者を対象とした体験機会の充実

■ 学生が参加可能なボランティア活動を大学コンソーシアム八王子加盟校等に情報提供して学生の参加を呼びかけました。  
令和7年度の参加者数(累計):148名

■ 斜面緑地保全区域において緑地保全ボランティアを実施しました。(1回・学生14名参加)
- 若者による社会参加・社会貢献活動の促進

■ 少年の非行などからの立ち直り支援を行っているBBS会の活動を支援するため、BBS会のイベントの後援名義などを行い、活動を支援しました。また、令和8年度に実施する「社会を明るくする運動」のイベント実施に向けて、令和7年度から更なる連携強化を図っています。

■ 市内在住の6名の学生が二十歳を祝う会実行委員として活動しました。

■ 大学コンソーシアム八王子による「学生による地域貢献活動等を支援する学生企画事業補助金」を実施し、令和7年度は、10件(7大学等10団体)に対し補助を行いました。
- 大学コンソーシアム八王子等との連携による学生活動の支援

■ 学生発表会の区分を変更したことが影響したのか、昨年度よりも発表件数は減少しました。(令和6年度313件→285件)

■ 大学コンソーシアム八王子加盟校の学生及び八王子市在住の学生を主な対象に、八王子市の魅力を30秒の動画CMにした作品を募集する八王子学生CMコンテストを開催しました。(応募作品数:35作品(12大学等))

指標の実績

|   | 指標                          | 策定時<br>(2023年度) | 2025年度<br>実績値 | 2026年度<br>実績値 | 2027年度<br>実績値 | 2028年度<br>実績値 | 2029年度<br>実績値 | 目標値<br>(2029年度) |
|---|-----------------------------|-----------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|-----------------|
| 1 | 体育の授業のほかにも運動をしている小学生・中学生の割合 | (小学生)<br>85.5%  | 84.6%         |               |               |               |               | 100%            |
|   |                             | (中学生)<br>80.2%  | 79.4%         |               |               |               |               |                 |
| 2 | 1年以内に文化・芸術等の体験をした子どもの割合     | 13.3%           | 15.6%         |               |               |               |               | 現状値以上           |
| 3 | 若者が対象となる生涯学習講座の数            | 10回             | 7回            |               |               |               |               | 現状値以上           |

自己評価

|   |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|---|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| B | 自然体験、スポーツ、文化芸術、歴史・伝統文化など、多様な遊びや体験の機会を提供し、子ども・若者が楽しみながら社会性や創造性を育む取組を進めました。<br>浅川での自然体験や農業体験、地域スポーツイベント、学校での体力向上の取組などにより、身体を使った遊びや体験の機会は一定程度確保されているとともに、オーケストラ鑑賞や図書館事業、日本遺産を活用した体験活動、若者向けのボランティアや地域貢献活動の支援を通じて、地域とのつながりや多世代交流を促進しています。<br>一方で、校外での運動機会や若者を対象とした生涯学習講座数が目標に達していないため、取組の更なる充実と体験活動の効果をより広く行き渡らせることが課題となっています。 |
|---|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

児童福祉専門分科会による評価

|  |  |
|--|--|
|  |  |
|--|--|

今後の取組

|  |
|--|
|  |
|--|

乳幼児期において、他者との関わりの中で子どもが生きる力の基礎を育むためのよりよい環境が整えられており、心身の健やかな発達が促され、子どもが笑顔で成長しています。子どもの成長を連続して支えるため、地域と連携しながら、幼児教育・保育施設と小学校等との円滑な接続が行われています。

## 施策7 乳幼児期の教育・保育の質の向上

● 幼児教育・保育センターによる乳幼児期の教育・保育の質の向上

■ 訪問支援の実績数は減少しましたが、新たに公開保育を開催し、その中で、保育の質向上を図りました。幼児教育・保育に関する方向性を示し、すべての子どもが、将来に渡って幸せな状態(ウェルビーイング)で過ごすことのできる方針として、「乳幼児期の教育・保育に関する方針(素案)」をまとめました。

■ 教育委員会との協働により、小学校における就学の様子を見学し、架け橋期の教育内容について、認識を深めました。

● 「乳幼児すくすくてくガイドライン(八王子市乳幼児期の教育・保育の質に関する指針)」を活用した幼児教育・保育の質の向上

■ 幼児教育・保育センター主催研修において、ガイドラインを資料として活用しました。

■ 各園の保育実践や環境の強みを活かし、乳幼児一人ひとりの興味・関心を起点とした主体的・協働的な探究活動を継続的に実践したことで、子どもの好奇心や主体性が育まれ、幼児教育・保育の質の向上が図られました。

● 量の適正化による幼児教育・保育の質の維持・向上

■ 幼児教育・保育施設の量の適正化、質の維持・向上を図るため、公立保育園の再編について検討を進めました。

● こども誰でも通園制度の実施

■ 公立保育園での「こども誰でも通園制度」の実施に向け、検討を進めました。

## 施策8 保・幼・小・学童連携の推進

● 「すくてくシート(旧就学支援シート)」の活用及び支援機関の連携推進

■ 「すくてくシート」の活用及び支援者や支援機関の連携を図るため、8月7日に「幼児教育と小学校教育をつなぐ架け橋カリキュラムの実践に向けて」というテーマで講演会を開催し、7月31日に「すくてくシート」研修会を開催しました。

■ 保・幼・小連携の拡充を図るため、架け橋カリキュラム作成に着手しました。また、保育施設、幼稚園、はちビバ、学童保育所、小学校教諭が交流する場において「すくてくシート」活用について情報交換を行い連携を図りました。

● スタートカリキュラムの活用

■ スタートカリキュラム等を活用するとともに、子ども家庭部と連携をはかり、入学後の子どもたちが安心して小学校生活を送ることができるような支援を実施しました。

● 「保・幼・小連携の日」の取組の充実

■ 「保・幼・小連携の日」では、小学校を中心に連携するグループの小学校教員・学童職員・幼稚園・保育施設職員が集まり意見交換等を行ないました。ガイドラインに基づいた動画を作成し、「保・幼・小連携の日」の充実に努めました。

■ ガイドラインに基づいた「はちおうじっ子の遊びと学びをつなげるスタートカリキュラム」を作成し、「保・幼・小教育の日」の充実に努めた。「はちおうじっ子マイファイル」の活用方法をチラシにて周知することで「すくてくシート」の活用を促進し、小学校入学にあたって切れ目のない支援を実施しました。

| 指標の実績 |    |                              |               |               |               |               |               |                 |
|-------|----|------------------------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|-----------------|
|       | 指標 | 策定時<br>(2023年度)              | 2025年度<br>実績値 | 2026年度<br>実績値 | 2027年度<br>実績値 | 2028年度<br>実績値 | 2029年度<br>実績値 | 目標値<br>(2029年度) |
|       | 1  | 幼児教育・保育従事者研修実施回数             | 3回            | 3回            |               |               |               | 8回以上            |
|       | 2  | 幼児教育・保育施設における「保・幼・小連携の日」の実施率 | 84.4%         | 97.7%         |               |               |               | 90%以上           |

| 評価 | 自己評価           |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|----|----------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|    | B              | <p>公開保育の実施や研修を通じて保育実践を振り返る機会を設けるとともに、「乳幼児期の教育・保育に関する方針（素案）」を取りまとめ、今後の方向性を示すことができました。</p> <p>また、「乳幼児すくすく てくてくガイドライン」や「すくてくシート」を活用した研修・講演会を実施し、保・幼・小連携や架け橋期の取組を進めるとともに、事故防止研修の実施や安全・安心マニュアルの改訂など、子どもの安全確保に向けた対応も行いました。</p> <p>一方で、訪問支援の実績や研修実施回数が目標水準に達していない項目があり、教育・保育の質向上と連携の取組をさらに充実させる必要があるという点においては、課題が残っています。</p> |
|    | 児童福祉専門分科会による評価 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|    |                |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |

| 今後の取組 |  |  |
|-------|--|--|
|       |  |  |

基本的な生活習慣や食習慣、運動習慣が身に付いており、心身ともに健康的な生活を送っています。子どもから若者期まで連続して自分自身の将来について考える機会が確保されています。薬物やインターネットトラブルなどから子ども・若者自身が身を守ることができるよう正しい知識が身に付いています。

## 施策9 健康で自立した生活に向けた取組

- 基本的な生活習慣の獲得に向けた啓発
  - 産婦・乳幼児健康診査等において、令和7年度から委託医療機関により個別実施する「3～4か月児健康診査」について、チラシ等で周知しました。また、親子つどいの広場にて、リトミックや離乳食講座など様々な子育てに関する講座を実施しました。
- 食べる楽しさや大切さを伝える食育の推進
  - 「はちおうじっ子の遊びと学びをつなげるスタートカリキュラム」を活用し、各学校における生活指導を充実させることができました。
  - 健康フェスタ・食育フェスタ等を開催し、食べる楽しさや大切さを周知しました。
  - より多くの子どもが、調理に親しむ機会を得られるように、給食センターの食育ルームを活用した「親子教室等」や災害時のパッキングなどを実施しました。（各給食センター（南大沢・元横山・元八王子・檜原・寺田）で各1～2回（合計9回）実施）
  - 八王子の特産品（八王子ショウガ、桑の葉、ブルーベリー、八王子産米など）を活用した給食で、郷土の恵みを知り、生産者の思いを知る食育の取組を行いました。（年14回）
- 子ども・若者が自ら運動に親しむ機会の創出
  - 全関東八王子夢街道駅伝競走大会（当日降雪のため中止）をはじめ、ヘルシーウォーキング、市民スポーツ大会や市民スポーツ・レクリエーション大会などを企画・開催しました。

## 施策10 将来や生き方を考える機会の確保

- キャリア教育の推進
  - 児童・生徒が自己の学習状況やキャリア形成を見通したり振り返ったりしながら、自身の変容や成長を自己評価できるよう、はちおうじっ子キャリア・パスポートを配布・提供しました。また、「はちおうじっ子 キャリア・パスポート」を介して、小中一貫教育グループが一体となってキャリア教育を推進できるようにしました。
  - 大学コンソーシアム八王子に加盟する大学等の学生を対象に、スタートアップセミナーを実施し、企業やアントレプレナーシップに関する基礎的な理解を深めるとともに、異なる専門性を持つ学生同士がチームを組んで、地域課題や社会課題の解決に取り組むことで、企業への第一歩を踏み出す契機を提供することを目的として開催しました。
- 赤ちゃんふれあい事業の推進
  - 市内公立中学校37校（夜間学級含む）で赤ちゃんふれあい事業を実施しました。
- 若者の創業・起業の支援
  - 学生・20代向け創業セミナーを行いました。

## 施策11 青少年の健全育成に向けた支援

- 青少年育成指導員や青少年対策地区委員会の活動支援
  - 230名の青少年育成指導員により延べ 5,000回以上の巡回活動、11月を中心に実施している青少年健全育成キャンペーンにおいて啓発物資を配布するなどし、地域の青少年健全育成の気運を醸成しました。
- メディアリテラシーの向上に向けた啓発活動の実施
  - 青少年問題協議会で協議された健全育成基本方針の令和7年度（2025年度）重点目標における行動指針として、「スマホ利用の「わが家のきまり」を話し合おう！」を掲げ、リーフレットを作成し、積極的に周知しました。リーフレットでは、SNS等へ投稿する内容によっては犯罪になる可能性があること、家庭での利用ルールづくりのためチェックリストや総務省ネットトラブル事例集などを閲覧できる2次元コードを記載しました。
  - 市立小学校及びいずみの森義務教育学校の6年生全児童対象（約4700名）に、子どもたちがインターネット上で適切なコミュニケーション方法を「自ら考える」ことを主眼とし、LINEみらい財団講師による児童の想像力・判断力を育むメディアリテラシー教育を実施しました。
- 学校や関係機関と連携した、薬物の危険性や飲酒・喫煙による健康への影響についての啓発・教育活動の実施
  - 八王子市学園都市推進会議と大学コンソーシアム八王子が共同で作成する新入生向け情報誌「BIGWEST 2025」に薬物の危険性や飲酒・喫煙による健康への影響等について記事を掲載し、18,000部を各大学等を通じて新入生に配付しました。
  - 市内中学生を対象に薬物乱用防止ポスター・標語の募集、入賞作品の展示、入賞作品を掲載したカレンダーの作成、同カレンダーを市内各施設や小・中学校等に配布及び掲示を行いました。また、令和7年度には、ポスター・標語の展示を八王子駅南口のOPA及び南大沢アウトレットで実施し、より多くの方々への周知啓発に努めました。
  - 薬物乱用防止に関する指導を小学校の体育科、中学校の保健体育科の授業を中心として計画的・系統的に指導しました。また、「薬物乱用防止教室」や薬物乱用防止を取り上げたセーフティ教室の開催を、発達段階に応じて年間指導計画に位置付け、年1回以上、実施しました。

| 指標<br>の実績 |                           |                 |               |               |               |               |               |                 |
|-----------|---------------------------|-----------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|-----------------|
|           | 指標                        | 策定時<br>(2023年度) | 2025年度<br>実績値 | 2026年度<br>実績値 | 2027年度<br>実績値 | 2028年度<br>実績値 | 2029年度<br>実績値 | 目標値<br>(2029年度) |
|           | 1<br>朝食を毎日食べている小学生・中学生の割合 | (小学生)<br>84.7%  | 83.9%         |               |               |               |               | 毎年度、前年度を上回る     |
|           |                           | (中学生)<br>78.7%  | 73.6%         |               |               |               |               |                 |
|           | 2<br>赤ちゃんふれあい事業の実施校数      | 35校             | 37校           |               |               |               |               | 35校以上           |

| 評価 | 自己評価           |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|----|----------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|    | B              | 健康・食育フェスタの開催や給食センターを活用した食育の取組を実施し、子ども自身はもちろん、家庭も含めた健康意識の向上を図る取組を進めました。また、将来の「生き方」を考える機会の提供ではキャリア教育の推進や大学生を対象とした地域課題や社会課題の解決に取組むセミナーの開催、はちビバによる子どもの就労体験イベントの実施など、将来の選択肢の幅が広がるきっかけづくりを進めました。<br>指標については、赤ちゃんふれあい事業の実施校数が目標を達成するなど一定の成果が見られた一方、朝食摂取率については引き続き改善の余地があります。今後は、家庭・学校・地域の連携を一層強化し、ヤングケアラー支援など新たな課題にも対応しながら、施策の質と効果の向上を図る必要があります。 |
|    | 児童福祉専門分科会による評価 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|    |                |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |

| 今後の<br>取組 |  |  |
|-----------|--|--|
|           |  |  |

子ども・若者が自分の居場所を持つことができ、様々な他者と関わりながら成長しています。居場所づくりの担い手が増加し、多様な居場所が確保されるとともに、子ども・若者自身も居場所づくりに参加しています。

## 施策12 多様な居場所の確保・創出

- 公共施設を活用した居場所づくり
  - 「フリースペース」を生涯学習センターで実施しました。（利用人数：22,762人）
  - 学童保育所において既存の施設定員のみでは待機児童が生じるおそれのある小学校区を対象に、小学校の特別教室等を借用することで受入れ定員を拡大し、待機児童を0人にした。また、放課後子ども教室で多くの子どもたちに放課後の安全で安心な居場所を提供した。
- 地域資源を活用した居場所づくり
  - 社会福祉協議会を事務局とする子ども食堂等のネットワーク「はちおうじミライ応援団」の活動により、子ども食堂の立上げ支援講座や助言等を実施しました。また、ホームページやチラシの配布をとおして、子ども食堂等の周知を行いました。
- 災害時の居場所づくり
  - 災害発生時には、被害状況および園舎の安全確認結果を踏まえ、代替保育の実施可否を判断し、必要に応じて事前に定めた施設において保育を実施します。

## 施策13 居場所につながる仕組みづくり

- 子ども・若者への情報発信
  - 生涯学習センター3館で開催するフリースペースの情報をXで発信した。（投稿回数：1,036回）
  - 若者総合相談センターでの活動の一環として、地域清掃、消費生活フェスティバルへの出展、はちビイベント等の地域行事への参加機会を利用者に提供し、その活動をSNSで周知しました。地域づくり推進会議をきっかけに長房地区で開催された「長房ミライ・ミーティング」では、子ども・若者育成支援センターが、地域団体・企業とともに役割を担い、高校生及び大学生の参加を促しました。
- 支援者への情報発信
  - 社会福祉協議会を事務局とする子ども食堂等のネットワーク「はちおうじミライ応援団」を運営し、子ども食堂等を行う市民団体の交流を促進しました。

## 施策14 より良い居場所にするための取組

- 子ども・若者とともに作る居場所づくり
  - はちビバでは子ども・若者の意見を聞き、安心して過ごす居場所として「Fica（フィーカ）」を4か所で実施しました。（実施回数：42回）
  - 子どもたちにとって身近な小学校施設を会場として、学童保育所と放課後子ども教室の児童を対象に、スポーツや科学実験、文化芸術など様々な体験活動の機会を提供しました。（延べ開催日数：13,144日）
- 居場所づくりの担い手の確保・育成
  - 社会福祉協議会を事務局とする子ども食堂等のネットワーク「はちおうじミライ応援団」の活動により、子ども食堂の立上げ支援講座や助言等を実施しました。

指標の実績

|   | 指標                                              | 策定時<br>(2023年度) | 2025年度<br>実績値 | 2026年度<br>実績値 | 2027年度<br>実績値 | 2028年度<br>実績値 | 2029年度<br>実績値 | 目標値<br>(2029年度) |
|---|-------------------------------------------------|-----------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|-----------------|
| 1 | 子ども食堂や学習支援団体など、八王子市地域子ども支援事業の登録団体がある中学校区（全37校区） | 26校区            | 28校区          |               |               |               |               | 37校区            |
| 2 | 地域に居場所があると感じている子ども・若者の割合                        | (子ども)<br>88.6%  | 確認中           |               |               |               |               | 89.8%           |
|   |                                                 | (若者)<br>68.8%   | 75.8%         |               |               |               |               | 75.0%           |

|    |                |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
|----|----------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 評価 | 自己評価           |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
|    | B              | 生涯学習センターやクリエイトホールにおけるフリースペースの運営、学童保育所や放課後子ども教室の受入体制の拡充などにより、日常的に利用できる居場所の充実が図られています。<br>また、子ども食堂等への支援や、若者総合相談センターにおけるフリースペースの提供、情報発信の強化を通じて、居場所につながる仕組みづくりを進めるとともに、医療的ケア児や障害児への支援、支援が必要な児童の受入れなど、困難を抱える子ども・若者への配慮を行い、誰一人取り残さない居場所づくりに努めました。<br>一方で、居場所の担い手や居場所同士の連携強化、地域全体への広がりという点では課題が残っており、地域に居場所があると感じている若者の割合についても、引き続き向上を図る必要があると考えています。 |
|    | 児童福祉専門分科会による評価 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
|    |                |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |

|       |  |
|-------|--|
| 今後の取組 |  |
|       |  |

地域の関係機関の連携が進み、親の子育ての不安や負担感が早期に軽減され、児童虐待を予防する環境が整っています。やむを得ず家族と離れて暮らす子どもがあたたかな環境で育ち、次代を築いていくための支援体制がつけられています。

### 施策37 児童虐待の予防や早期発見・早期対応

- 子育ての負担や不安軽減による虐待予防
  - 家事・子育て等に対して不安や負担を抱える子育て家庭、妊娠婦やヤングケアラー等がいる家庭の居宅に訪問支援員を派遣し、家庭が抱える不安や悩みを傾聴するとともに、家事・子育て等の支援を実施しました。（3家族61回訪問）
  - （ショートステイ・トワイライトステイ）保護者の病気、育児疲れ、虐待等の緊急時など、児童を施設で一時的に養育することで、虐待の予防と家庭養育の支援を行いました。（延利用日数：ショートステイ1,297日、トワイライトステイ444日）
- 面談や健診での児童虐待の早期発見
  - こども家庭センターで保健師等による妊婦面談を実施し、はちベビギフトを交付しました。子ども・若者育成支援センターの子育てひろばでは、職員が親の不安や悩みの聞き手となり、不安の解消に努めました。
  - 伴走型相談支援の一環で、赤ちゃんが産まれた全ての家庭に保健師・訪問指導員が訪問し、発育・発達や産後の体調などを相談できる、あかちゃん訪問事業を実施しました。令和7年度より八南助産師会に委託し、事業の効率化を図りました。
- 小・中学校における児童虐待予防と早期発見に向けた体制の充実
  - スクールソーシャルワーカー（SSW）がすべての小・中・義務教育学校を定期的に巡回訪問しました。SSWは、子どもたちが抱える様々な課題について、学校と協力して支援策を検討するとともに、家庭訪問等の支援を行うことで、子どもやその家庭、学校の相談に対応しています。

### 施策38 支援が必要な家庭への支援と人財育成

- 支援機関の連携を深めるネットワークの充実
  - 令和6年度（2024年度）より、八王子市子ども家庭支援ネットワーク（要対協）の中学校分科会をより細分化し、市内の小中学校等、関係機関と個別に子どもを取り巻く社会環境についての情報共有を実施しました。（開催回数：64回）
- 要支援家庭への支援の充実
  - 支援が必要な子どもやその家族に対し、信頼関係の構築および支援の方向性を確認するため、サポートプランを作成し、目標達成に向け支援を行いました。（作成件数：388件）
- 児童虐待防止のための人財育成
  - 相談職員向け研修を実施した他、東京都や民間団体が主催する研修へ参加し人財育成を図りました。（実施回数：10回、延参加人数：220名）
  - 民生委員・児童委員協議会の部会活動等で子育て支援に関する研修を実施しました。（参加者：199名）
- 児童育成支援拠点の検討
  - 令和8年度開所に向け、予算化しました。

### 施策39 社会的養護を必要とする子どもへの支援

- 社会的養護や里親制度について周知・啓発
  - 東京都と連携し市内商業施設でのPR活動、図書館や地域事務所での展示会、各種イベント時に啓発グッズの配布を実施しました。また、11月8日に養育家庭（里親）体験発表会を実施しました。（パネル展示：イース高尾3回、イトーヨーカドー南大沢店1回、地域事務所5か所）
- 家庭的養護の推進
  - 児童相談所や関係機関からの依頼に基づき、個別ケース検討会議を実施し、情報の共有と退所後の支援における役割分担を明確にしました。（実施回数：140回）

|   | 指標                | 策定時<br>(2023年度) | 2025年度<br>実績値 | 2026年度<br>実績値 | 2027年度<br>実績値 | 2028年度<br>実績値 | 2029年度<br>実績値 | 目標値<br>(2029年度) |
|---|-------------------|-----------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|-----------------|
| 1 | こども家庭センター相談（活動）数  | 67,381件         | 確認中           |               |               |               |               | 70,000件以上       |
| 2 | こども家庭センター新規相談受付件数 | 2,337件          | 確認中           |               |               |               |               | 2,600件以上        |
| 3 | 児童相談所への送致件数       | 18件             | 27件           |               |               |               |               | 18件以下           |

## 自己評価

|   |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
|---|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| B | <p>妊婦面談やあかちゃん訪問事業、子育てひろば等を通じて、子育ての不安や負担感の軽減を図るとともに、面談や健診の機会を活用した早期発見に努めています。</p> <p>また、スクールソーシャルワーカーによる全校定期巡回や、要保護児童対策地域協議会（要対協）における情報共有、要支援家庭へのサポートプランに基づく支援などにより、支援が必要な家庭への対応力の向上を図るとともに、相談職員や民生委員・児童委員を対象とした研修を実施し、児童虐待防止に向けた人材育成にも取り組んできました。</p> <p>一方で、相談件数の増加傾向を踏まえると、支援ニーズは依然として高く、さらなる支援体制の強化や関係機関との連携、早期支援の提供等、事業を深めていく必要があります。</p> |
|---|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

## 児童福祉専門分科会による評価

|  |  |
|--|--|
|  |  |
|--|--|

|  |
|--|
|  |
|--|

## 配慮が必要な子ども・若者と家庭への支援 障害のある子ども・若者への支援

障害のある子ども・若者を支えるネットワークが充実し、発達の早い段階から切れ目ない支援が行われており、地域の中で安心して成長しています。障害のある子ども・若者の特性や成長に合わせた支援や居場所づくりが進んでおり、平等に教育や就労の機会を得られ、社会参加や自立した生活を実現するための力が育まれています。

### 施策40 発達に不安がある子ども・若者への支援

● 子ども・若者の発達に関する相談体制の充実

■ 若者総合相談センターで働くことや学ぶことへの不安や悩みを抱える高校生世代以降の若者とその保護者からの相談を受け付け、それぞれの若者の現状に応じた支援を見立て、適切な支援機関につなげています。

■ 医療的ケア児が利用できる施設について、障害者施設整備方針に基づく優先的整備誘導を図るため、運用ガイドラインを制定しました。また市施設整備費補助等を活用し、事業者に働きかけを行いました。

■ 教育センターでは、総合教育相談室において、小・中学生やその保護者を対象に、心理相談員による発達や不登校などに関する相談を実施。就学相談では、特別な支援が必要なお子さんの就学・転学に関する相談に対応。庁内横断的に医療的ケア児検討会を実施し、情報共有と検討を行いました。

■ 発達健診や心理発達相談を行いました。

● 保護者サロンの実施

■ 子どもの発達に関する悩みや身近な情報を共有できる場を設置し、保護者同士の交流を図りました。（保護者サロン「ほっとすてっぷ」の実施：6回・8人）

● 幼児教育・保育施設における巡回発達相談の充実

■ 子どもの発達支援を専門とする職員が教育・保育施設を巡回する巡回発達相談を、合計351件実施しました。令和6年度(2024年度)より33件増えました。増加要因は、同行する相談員(心理士)が1名増えたためです。地域型保育(家庭的保育)や認可外(幼稚園類似施設)保育施設への巡回も行い、巡回施設の拡充を図りました。

● 発達障害の早期発見・早期支援の充実

■ 小児障害メディカルセンター内の発達障害児支援室「からふる」にて、発達障害のある、またはおそれのある児童に対し、早期発見・早期療育を行うことにより、その児童や家族が安心して生活が送れるように、相談支援事業・療育支援事業・普及啓発事業等を行いました。

■ 令和7年度から関連部署との庁内検討会および医師会等との5歳児健診準会を開催し、健診体制及びフォロー体制の構築について定期的に検討を行いました。

● 障害児・障害者への支援を行う施設の整備

■ 障害児・障害者施設の老朽化への対応において、市施設整備費補助等の活用に関して、必要に応じて事業者に働きかけを行いました。

### 施策41 切れ目ない支援体制の充実

● 「はちおうじっ子マイファイル」事業の推進

■ 「はちおうじっ子マイファイル」事業で障害児のライフステージに即した切れ目ない支援を推進するとともに、はちおうじっ子・切れ目のない支援事業等庁内検討委員会や障害者地域自立支援協議会こども部会を開催し、障害のある子どもと家庭を支援するために現状の把握と情報の共有を行い、障害児支援を推進しました。

● 幼児教育・保育施設等での障害児の受入(インクルーシブ教育・保育)

■ 公立保育所において、要支援児(看護師の見守り必須)の保育体制を整えた。また、継続して、医療的ケア児受入体制を整えました。

● 障害のある若者の就労支援

■ 障害者就労・生活支援センター「ふらん」などとの協働により就労面と生活面の一体的な支援を行いました。

### 施策42 重症心身障害児・医療的ケア児への支援

● 在宅レスパイト事業の実施

■ 看護師等が重症心身障害児等の自宅に訪問して、家族の代わりに一定時間ケアを行う在宅レスパイト事業を行いました。

|                               |                                                                                                                    |
|-------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ● 医療的ケア児コーディネーター事業            | ■ 医療機関と連携した医療的ケア児コーディネーターを配置し、医療的ケア児等やその家族が福祉・保健・医療・その他関連分野の連携したサポートを受けられるよう、支援を行いました。                             |
| ● 医療的ケアを必要とする子どもの療育・訓練の場の充実   | ■ 「八王子市立学校における医療的ケアの実施に関するガイドライン」に基づき、今後の学校における医療的ケア児受け入れに関する基準や運用方法に従って、医療的ケアが必要な児童・生徒に対して、学校に看護師を派遣、合理的配慮に努めました。 |
| ● 重症心身障害児や医療的ケア児を対象とする活動の場の拡充 | ■ 通所事業所に対して、重度障害者の日中活動の場を確保し、重度障害者の福祉の向上を図ることを目的とする八王子市重度障害者日中活動系サービス受入促進事業補助金を交付しました。                             |

| 指標<br>の実績 | 指標 | 策定時<br>(2023年度)              | 2025年度<br>実績値 | 2026年度<br>実績値 | 2027年度<br>実績値 | 2028年度<br>実績値 | 2029年度<br>実績値 | 目標値<br>(2029年度) |
|-----------|----|------------------------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|-----------------|
|           | 1  | 学校サポーター・特別支援ボランティアの活動者数      | 746人          | 888人          |               |               |               | 826人以上          |
|           | 2  | 巡回発達相談件数                     | 274件          | 351件          |               |               |               | 350件以上          |
|           | 3  | 障害者に対して理解や配慮をしている市民の割合       | 69.1%         | 75.6%         |               |               |               | 80.0%           |
|           | 4  | 重症心身障害児に対して確実にサービスが提供できる事業所数 | 13事業所         | 12事業所         |               |               |               | 16事業所以上         |

| 評価 | 自己評価           |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
|----|----------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|    | A              | <p>若者総合相談センターや教育センター等における相談対応に加え、巡回発達相談の実施件数を増やすなど、発達に不安のある子どもや保護者への早期支援体制の充実が図られています。</p> <p>また、「はちおうじっ子マイファイル」を活用した切れ目のない支援の推進や、幼児教育・保育施設等における障害児の受入体制整備など、ライフステージに応じた支援を実施するとともに、保育・教育関係者を対象とした研修や、医療的ケア児・重症心身障害児へのレスパイト支援などにより、支援の質と量の両面での充実を図ってきました。</p> <p>指標についても、巡回発達相談件数や特別支援ボランティアの活動者数など、目標水準を達成しており、施策の効果が一定程度現れており、基盤整備と支援体制の充実が着実に進展しています。</p> |
|    | 児童福祉専門分科会による評価 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
|    |                |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |

| 今後の取組 |  |
|-------|--|
|-------|--|

## 配慮が必要な子ども・若者と家庭への支援 ひとり親家庭への支援

ひとり親家庭への総合的な支援が充実し、生活基盤の安定により安心して子育てができています。家族がふれあうゆとりある生活を送っており、子どもは、様々な体験や交流を重ね、未来への希望を持ちながらいきいきと学び、心豊かに成長しています。

### 施策43 ひとり親家庭への支援

#### ●就労支援や資格取得支援の実施

■ 「就労生活相談窓口」において、相談者に適した職業紹介と企業開拓を行いました。LINEによる相談などを行い、相談機会の充実を行いました。（支援者数：68人、LINE相談者数：90人）

■ 就業・家計専門員が相談者のやりたいこと、できることを聞き取り、ハローワークなどの関係機関と連携して、就労支援を行うとともに、職業訓練など資格取得支援制度の紹介を行いました。また、ライフプラン表をともに作成するなど、家計に関する助言も行いました。（就労支援件数：27人、家計相談件数：18人）

#### ●経済的支援や家事支援

■ 家事又は育児等の日常生活に支障が生じているひとり親家庭等にホームヘルパーを派遣しました。（派遣回数：495回、派遣世帯数：17世帯）

#### ●ひとり親家庭への情報提供

■ ひとり親家庭支援情報メールマガジン「はち☆エール」でひとり親家庭への支援制度やイベント、公営住宅情報、子ども食堂などの情報を配信しました。また、LINEを活用し、様々な情報発信を行いました。（メルマガ配信回数：22回、LINE配信回数：52回）

### 施策44 ひとり親家庭で育つ子どもへの支援

#### ●学習支援の実施

■ 児童扶養手当受給程度の所得のひとり親家庭の中学生と小学校5・6年生などに対し、大学生等を派遣し学習支援を行いました。子ども・若者育成支援センターでは、日ごろから子どもの相談相手になりました。（支援人数 中学生：32人、小学生：12人）

#### ●ひとり親家庭の親と子がふれあう機会の提供

■ ひとり親家庭の親子・親同士・子同士がふれあい、交流できるよう、マス釣り体験や、や、野菜の収穫体験を行いました。山梨県へのバスツアーは雪の影響で中止となり、代替としてスケート体験を行いました。（実施回数：3回、参加人数：67人）

#### ●生活力の向上に向けた体験活動の実施

■ ひとり親家庭の小学校4～6年生を対象に、子ども・若者育成支援センター、調理支援員、学生ボランティアと一緒に、午前中はメニュー決めから買い物、調理を行い、午後にボードゲーム等で遊ぶ体験活動を行いました。（開催数：3回、延べ参加者数：54人）

施策45 ひとり親家庭になる前からの支援

- 離婚に関する相談等の実施

■弁護士による養育費などの個別法律相談を実施しました。（弁護士相談人数：48人）
- 就労支援の実施

■印象を良く見せるためのパーソナルカラーセミナー、姿勢改善を目的とした美姿勢セミナー、子どもへの声かけや片づけ方を学ぶ収納セミナー、介護職への関心を高める介護施設見学セミナー、看護師を目指す家庭を支援する市立看護専門学校体験セミナーを開催しました。さらに無料でパソコン講座を開講しました。ひとり親家庭向けに開催していたパーソナルカラーセミナー・看護専門学校体験セミナー、パソコン講習会などについて、離婚前提別居中などのひとり親家庭になる前の方に対象を拡大しました。（実施回数：10回、参加者数：76人）
- 養育費を確保するための支援の実施

■養育費を安定して確保するため、公正証書などで養育費の取決めを行うものに対し、助成を行いました。（支援件数：21件）

指標の実績

|   | 指標                            | 策定時<br>(2023年度) | 2025年度<br>実績値 | 2026年度<br>実績値 | 2027年度<br>実績値 | 2028年度<br>実績値 | 2029年度<br>実績値 | 目標値<br>(2029年度) |
|---|-------------------------------|-----------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|-----------------|
| 1 | 18歳以下の人口における児童扶養手当支給対象児童数の割合  | 6.0%            | 6.2%          |               |               |               |               | 4.2%            |
| 2 | 体験活動に参加した子どもの満足度              | 86.0%           | 90.6%         |               |               |               |               | 100.0%          |
| 3 | 児童扶養手当支給世帯のうち養育費を受け取っている世帯の割合 | 21.3%           | 23.7%         |               |               |               |               | 22.9%           |

評価

自己評価

|   |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
|---|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| A | 就労生活相談窓口や母子・父子自立支援員による相談支援を通じて、就労や資格取得、家計管理、養育費に関する相談など、家庭の状況に応じたきめ細かな支援を実施するとともに、LINE等を活用した相談や情報提供により、支援につながりやすい環境づくりを進めました。<br>また、ホームヘルパー派遣や市営住宅の優遇抽選、保育施設・学童保育所の入所配慮などにより、ひとり親家庭の生活上の負担軽減を図るとともに、学習支援や体験活動、親子の交流事業を実施し、子どもが様々な経験を通じて健やかに成長できる機会の確保に努めました。<br>体験活動に参加した子どもの満足度や養育費を受け取っている世帯の割合が向上するなど、施策の効果が一定程度現れていることから、支援が着実に進展していると考えます。 |
|---|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

児童福祉専門分科会による評価

|  |  |
|--|--|
|  |  |
|--|--|

今後の取組

|  |
|--|
|  |
|--|

子ども・若者の将来が、家庭環境に左右されることのないよう、必要な支援の充実と教育の機会均等が図られ、将来への希望を持って、チャレンジができる社会となっています。また、子ども・若者が社会に出た後も貧困が連鎖することなく自立した生活を送ることができています。

### 施策46 子どもへの教育・生活支援

- 身近な場所での学習支援の実施
  - 子どもが学習意欲を保ちながら学びに取り組めるよう、市内13か所において学習支援教室「はち☆スタ」を実施し、学習の機会を提供した。（延べ利用者数：231名）
- 地域での相談・居場所づくり
  - はちビバや給食センター、出張活動などでは、日常的に子どもからの相談を受けられる体制を整えました。
  - 相談員や保健師が、高い専門性とソーシャルスキルを活用し、妊産婦や子育て家庭に対し子どもに関する相談支援を実施しました。
- 生活に困難を有する子どもを支援する団体への支援
  - 地域子ども支援事業で子ども食堂等の団体間の連携を促進し、連絡会の開催により情報交換や研修を実施しました。また、市の補助金を45団体に交付し、子ども食堂等の活動費を補助しました。（子ども食堂などを実施する団体数：65団体）

### 施策47 生活に困っている世帯への支援

- 支援対象者の実態に応じた自立支援プログラムや多機関連携による支援の実施
  - 生活困窮者自立支援相談窓口では生活に困っている方に寄り添い、相談者の状況に応じて自立に向けた支援を実施しました。（実施件数：3,417件）
- 身近な場所で早期に相談や支援が行える体制づくり
  - はちまるサポートを市内13所か運営し、立場、分野問わずどこに相談したらよいかわからない相談を受付けています。
  - 生活困窮者自立支援相談窓口では、関係する教育機関等と連携し、児童の状況把握を行い、適正な就学支援を実施しました。（教育機関との連携回数：423件）

### 施策48 若者の生活の安定

- 若者の安定した雇用の促進
  - はちおうじ就職ナビにより市内企業274社の求人情報等の情報発信を行いました。
- 若者の職場定着に関する支援
  - はちおうじ就職ナビに登録している企業等に、就職した新入社員を対象に新入社員合同研修を行いました。（全4日間、参加企業22社、参加者43名）
- 若者への就労・生活などに関する相談支援
  - 若者総合相談センターにおいて、不登校や退学している若者の相談を受け付けるとともに、就労に向けた支援が必要な若者については、八王子若者サポートステーションにおける就労に向けた適切な支援につなげました。相談のあった生徒が在籍する高校のYSWIに加えて教員からの紹介により、今後の支援に向けた本人と教員又は保護者との個別面談を行い、若年期からの支援につなげました。
- 若者の就学に関する支援
  - 受験料や塾代の貸付を行う受験生チャレンジ支援貸付事業などの情報が支援を必要とする方へ届くよう周知を進めました。

指標の実績

|   | 指標                        | 策定時<br>(2023年度) | 2025年度<br>実績値 | 2026年度<br>実績値 | 2027年度<br>実績値 | 2028年度<br>実績値 | 2029年度<br>実績値 | 目標値<br>(2029年度) |
|---|---------------------------|-----------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|-----------------|
| 1 | 生活保護利用世帯の中学生のうち無料学習教室の参加率 | 22.1%           | 18.2%         |               |               |               |               | 30.0%           |
| 2 | 生活に困っている世帯の新規相談受付件数       | 3,431件          | 3,417件        |               |               |               |               | 4,000件          |
| 3 | 八王子若者サポートステーションにおける進路決定者数 | 32人             | 42人           |               |               |               |               | 70人             |

評価

自己評価

|   |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
|---|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| B | <p>「はち☆スタ」の運営や、はちビバ等を活用した相談・居場所づくり、子ども食堂等の地域団体への支援を通じて、身近な地域で支援につながる環境整備を進めているほか、生活困窮者自立支援相談窓口やはちまるサポートにおいて、生活に困難を抱える世帯からの相談に対応し、関係機関と連携しながら自立に向けた支援を行っています。</p> <p>また、就学援助費や奨学金、住宅支援などの経済的支援、若者総合相談センターや若者サポートステーションを通じた就労・進路支援を実施し、貧困の連鎖防止に向けた取組も進めています。</p> <p>一方で、学習支援の参加率については目標達成に至っておらず、支援が必要な子ども・若者に情報が届くよう、相談窓口も含めた取組のさらなる周知が課題となっています。</p> |
|---|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

児童福祉専門分科会による評価

|  |  |
|--|--|
|  |  |
|--|--|

今後の取組

|  |
|--|
|  |
|--|

外国人や海外から帰国した子ども・若者・保護者が、言葉の壁や心の壁を感じることなく、安心して暮らすことができ、地域に居場所を作ることができています。また、日本人も外国人も地域の一員として、国籍、民族、文化の違いを互いに認め合い、助け合い、活かし合いながら、共に暮らしています。

### 施策49 外国につながる子ども・若者と家庭への支援

#### ● 子どもへの日本語学習支援や生活支援

■ 日本語を母国語としない子どもが安心して立ち寄ることができる地域の居場所として「多文化キッズサロン」を開設し、学習事業・相談事業・交流事業を実施しています。  
八王子駅前・北野駅前教室…R5からNPO法人八王子国際協会が実施  
高尾駅前教室…R7からひまわり(拓殖大学外国語学部国際日本語学科の教授及びゼミ生で構成される任意団体)が実施

■ 日本語が話せない学齢の児童・生徒が就学した際に支援者を派遣し、学校生活をサポートしました。また、小学校2校、中学校1校に設置する日本語学級への通学費を支給しました。

#### ● 保護者への日本語学習支援や生活支援

■ 「外国人のための日本語教室」を106回実施し、228名(延べ1,501名)が参加しました。

■ 在住外国人サポートデスクにおいて、生活に関する相談対応、情報提供を実施しました。在学中の教育機関との連携を図り、卒業後等に円滑に若者総合相談センターの支援につなげられるよう、各種教育機関への若者総合相談センターの周知及び個別連携を図りました。

#### ● 子どもや保護者の居場所づくり

■ 日本語を母国語としない子どもが安心して立ち寄ることができる地域の居場所として「多文化キッズサロン」を開設し、学習事業・相談事業・交流事業を実施しています。  
八王子駅前・北野駅前教室…R5からNPO法人八王子国際協会が実施  
高尾駅前教室…R7からひまわり(拓殖大学外国語学部国際日本語学科の教授及びゼミ生で構成される任意団体)が実施

### 施策50 多文化共生意識の啓発や国際理解の推進

#### ● 小・中学校における国際理解教育の推進

■ 外国語指導助手(ALT)を配置しました。(配置した時間は小学校、義務教育学校第3・4学年は10時間、小学校、義務教育学校第5・6学年は5時間、中学校第1・2学年、義務教育学校第7・8学年は7時間、中学校第3学年、義務教育学校第9学年は4時間、特別支援学級は5時間)

■ 近隣大学と連携し、小・中学校8校に留学生を派遣し、外国の言語や文化についての理解を深めたり、外国語を用いてコミュニケーションをはかったりする授業を実施しました。(協力大学:6校)

#### ● 海外友好交流都市との交流

■ 海外友好交流都市(ドイツ・ヴリーツェン市、中国・泰安市・台湾・高雄市)との交流事業を実施しました。また、台湾産パイナップルの寄附を受け、市内中学校の学校給食で提供しました。(再掲)

#### ● 助っ人留学生制度による地域交流

■ 外国人留学生ならではの視点や能力を活かし、地域活性化につながる活動とマッチングする助っ人留学生事業を実施しました。(活動件数:延べ180件)

| 指標の実績 |    |                   |               |               |               |               |               |                 |
|-------|----|-------------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|-----------------|
|       | 指標 | 策定時<br>(2023年度)   | 2025年度<br>実績値 | 2026年度<br>実績値 | 2027年度<br>実績値 | 2028年度<br>実績値 | 2029年度<br>実績値 | 目標値<br>(2029年度) |
|       | 1  | 語学ボランティア登録者数      | 371人          | 392人          |               |               |               | 現状値以上           |
|       | 2  | 外国人と交流したいと思う市民の割合 | 45.9%         | 34.8%         |               |               |               | 65.0%           |

| 評価 | 自己評価           |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|----|----------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|    | B              | <p>多文化キッズサロンの運営や、日本語を母語としない児童・生徒への学習支援、日本語教室の実施などを通じて、子どもと保護者が地域につながる機会の確保を図りました。</p> <p>また、多言語通訳ややさしい日本語を活用した窓口対応の充実、在住外国人サポートデスクでの相談対応などにより、行政情報へのアクセス性向上に努めるとともに、学校における国際理解教育や、大学の留学生を活用した交流事業、海外友好交流都市との交流を通じて、多文化共生意識の醸成を進めています。</p> <p>一方で、市民の多文化交流への意識については指標値が目標から大きく後退しており、取組の効果がでていない状況となっています。</p> <p>外国人世帯への支援体制の整備や取組は着実に進められているものの、多文化共生の理解促進や交流の広がりに向けた更なる工夫と取組が必要となっています。</p> |
|    | 児童福祉専門分科会による評価 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|    |                |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |

| 今後の取組 |  |  |
|-------|--|--|
|       |  |  |

様々な悩みを抱える子どもや若者が安心して相談できる環境が整い、必要な支援を受けることができます。また、地域社会全体が協力し、様々な悩みを抱える子どもや若者を支援するネットワークが構築されています。

### 施策51 包括的な相談・支援体制

- こども家庭センターの運営
  - 全ての妊産婦、子育て世代、子どもを対象に一体的に相談支援を行うこども家庭センターを設置しました。（事業を実施するための企画立案及び総合調整を行う総合センター1館、児童、妊産婦及びその家庭に対しサービスの提供及び包括的支援を行う地域センターを3館設置しました。）
- はちまるサポートによる相談・支援体制
  - 市内13か所にはちまるサポートを設置し、福祉の専門職となるCSWが分野横断的な生活課題の相談に対応しました。（相談件数：1,007件 50代、60代、40代の順に多かった）
- 若者なんでも相談窓口
  - 若者総合相談センターにおいて、高校生世代以降の若者の悩みや思いを何でも受け止め、適切な支援につなげる相談支援、人と話すことに慣れることのできるプログラム活動やフリースペースの提供、地域活動への参加といった活動を行うとともに、他の支援機関への巡回訪問を継続し、ネットワークづくりを行いました。（利用件数3,731件（うち相談件数1,143件）、新規相談者数208名）。また、若者総合相談センターを周知するため、Web広告を7か月間実施したことで、検索数及び新規相談者数の増加など周知促進効果が得られました。
- 孤独・孤立対策の推進
  - NTT東日本、まちづくり八王子と協定を締結し、中心市街地に孤独・孤立対策の拠点となる居場所を設置しました。また、生成AIを活用した傾聴アプリの実証事業を実施し、実装に向けた検証を行いました。（イベント参加者数：280名、実証事業（3か月）における相談件数：1,243件…30代、50代、40代、20代の順に相談が多い）
- はちビバの再編・拠点化による子ども・若者の相談・育成支援
  - 4か所のはちビバで若者の個別相談対応のため「Fica（フィーカ）」実施し、子ども・若者の相談支援に取り組みました。（実施回数：42回）

### 施策52 自殺や引きこもりなど様々な悩みへの支援

- 自殺対策の推進
  - 若年層の自殺を減らすため、市内3大学へ直接出向き、ゲートキーパー養成講座を実施しました。
  - 市内医療機関の医療従事者向けに自殺未遂者講演会（支援者向け）を実施しました。また、若者総合相談センターと合同研修会を実施し、情報共有・連携体制の強化を図りました。
  - 自殺対策強化月間（9・3月）での街頭キャンペーンで、若年層の関心が高い地元プロバスケットボールチームの選手と一緒にポケットティッシュを配布し、普及啓発活動を行った。市内大学生が考えたメッセージと地元プロバスケットボールチームの選手写真からなるポスターを作成し、市庁舎、公用車、病院・クリニック、学校等で掲示した。
  - 若年層が利用しやすいインターネット検索において、「死にたい」などの語句に連動して相談窓口などの情報を表示するサービスを提供しました。（相談先を閲覧した件数：6847回…対象は自殺対策強化玄関の前後合計6か月間）
- 不登校やひきこもり状態にある子ども・若者への支援
  - 若者総合相談センターにおいて、高校生世代以降の若者の悩みや思いを何でも受け止め、適切な支援につなげる相談支援、人と話すことに慣れることのできるプログラム活動やフリースペースの提供、地域活動への参加といった活動を行うとともに、他の支援機関への巡回訪問を継続し、ネットワークづくりを行いました。（再掲）
  - 八王子市包括的な地域福祉ネットワーク会議ひきこもり支援部会を年2回開催し、分野横断的な関係機関との連携強化を図るとともに、各所管と連携した事例検討会を2回開催し、主体間の相互理解を促進しました。
  - はちおうじっ子マイファイルを活用し、小学校から中学校へ保護者同意のもと児童の情報や書類の引継ぎを行いました。また、児童・生徒の学校生活を充実したものにするため、学校と保護者が連携し、幼児期から小・中学校までの学齢期において実施されてきた支援に関する情報を記録した学校生活支援シートを作成し、必要な情報の引継ぎを行いました。

|                    |                                                                                                                                 |
|--------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ●こころの健康に向けた支援      | ■在宅精神患者(こころの健康に不安のある方を含む。)の療養状況を把握し、安定した生活が送られるよう支援しました。保健師による訪問・面接・電話等(39歳以下):延べ4,391件)                                        |
| ●ヤングケアラーやダブルケアへの支援 | ■相談員や保健師が、高い専門性とソーシャルスキルを活用し、妊産婦や子育て家庭に対し子どもに関する相談支援を実施しました。(再掲)<br><br>■市内13か所にはちまるサポートを設置し、福祉の専門職となるCSWが分野横断的な生活課題の相談に対応しました。 |

| 指標<br>の実績 |    |                      |               |               |               |               |               |                 |
|-----------|----|----------------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|-----------------|
|           | 指標 | 策定時<br>(2023年度)      | 2025年度<br>実績値 | 2026年度<br>実績値 | 2027年度<br>実績値 | 2028年度<br>実績値 | 2029年度<br>実績値 | 目標値<br>(2029年度) |
|           | 1  | 若者総合相談センターにおける利用件数   | 3,462件        | 3,731件        |               |               |               | 3,500件以上        |
|           | 2  | 居場所があると感じている市民の割合    | 66.7%         | 64.3%         |               |               |               | 75.0%           |
|           | 3  | 「身近なゲートキーパー講習会」の受講者数 | 3,655人        | 4,871人        |               |               |               | 4,100人以上        |

| 評価 | 自己評価           |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
|----|----------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|    | A              | <p>こども家庭センターの設置や、はちまるサポート、若者総合相談センターの運営を通じて、分野横断的な相談対応や伴走型支援を行い、相談しやすい環境づくりを進めています。</p> <p>また、孤独・孤立対策として、居場所の設置や生成AIを活用したオンラインの傾聴窓口の実証事業を実施するなど、複合的な課題に対応した取組を展開するとともに、若者支援地域協議会や関係機関による研修・事例検討を通じ、支援ネットワークの構築と人材育成にも取り組んでいます。</p> <p>民間との連携や技術の活用、自殺対策におけるゲートキーパーの養成等が順調に進んでいるものの、「居場所があると感じている市民の割合」は微減となっており、取組の成果を十分に実感しにくい状況が見られるため、相談窓口をはじめ、様々な施策を地域全体に浸透させていくための工夫や取組が必要であると考えます。</p> |
|    | 児童福祉専門分科会による評価 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
|    |                |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |

| 今後の取組 |  |
|-------|--|
|-------|--|

点検評価報告書のページの見方

計画に記載する18の基本施策の取り組み状況(令和7年度分)について、実施状況と内部評価を記載しています。

資料5

前年度の実績をもとに市の自己評価を記載しています。

【評価基準】

- A:令和11年度の目標達成に向けて計画以上に取組めた  
B:令和11年度の目標達成に向けて順調に取り組めた  
C:令和11年度の目標達成に向けて取組が遅れている  
D:取組が実施されていない

基本方針  
基本施策  
16

4

配慮が必要な子ども・若者と家庭への支援  
子ども・若者の貧困の解消

めざす姿

子ども・若者の将来が、家庭環境に左右されることのないよう、必要な支援の充実と教育の機会均等が図られ、将来への希望を持って、チャレンジができる社会となっています。また、子ども・若者が社会に出た後も貧困が連鎖することなく自立した生活を送ることができています。

令和7年度に取り組んだ内容を記載しています。

計画に記載された主な取組のうち、特徴的なものを記載しています。

46 子どもへの教育・生活支援

身近な場所での学習支援の実施

■ 子どもが学習意欲を保ちながら学びに取り組めるよう、市内13か所において学習支援教室「はち☆スタ」を実施し、学習の機会を提供した。(延べ利用者数:231名)

地域での相談・居場所づくり

■ はちビバや給食センター、出張活動などでは、日常的に子どもからの相談を受けられる体制を整えました。

■ 妊産婦や子育て家庭、子どもに関する相談を専門の相談員や保健師が、その専門性やソーシャルスキルを活かして相談や支援を行いました。

● 生活に困難を有する子どもを支援する団体への支援

■ 地域子ども支援事業で子ども食堂等の団体間の連携を促進し、連絡会の開催により情報交換や研修を実施しました。また、市の補助金を45団体に交付し、子ども食堂等の活動費を補助しました。(子ども食堂などを実施する団体数:65団体)

施策47 生活に困っている世帯への支援

● 支援対象者の実態に応じた自立支援プログラムや多機関連携による支援の実施

■ 生活困窮者自立支援相談窓口では生活に困っている方に寄り添い、相談者の状況に応じて自立に向けた支援を実施しました。(実施件数:3,417件)

● 身近な場所ですぐに相談や支援が行える体制づくり

■ はちまるサポートを市内13所か運営し、立場、分野問わずどこに相談したらよいか分からない相談を受け付けています。

■ 生活困窮者自立支援相談窓口では、関係する教育機関等と連携し、児童の状況把握を行い、適正な就学支援を実施しました。(教育機関との連携回数:423件)

施策48 若者の生活の安定

● 若者の安定した雇用の促進

■ はちおうじ就職ナビにより市内企業274社の求人情報等の情報発信を行いました。

● 若者の職場定着に関する支援

■ はちおうじ就職ナビに登録している企業等に、就職した新入社員を対象に新入社員合同研修を行いました。(全4日間、参加企業22社、参加者43名)

● 若者への就労・生活などに関する相談支援

■ 若者総合相談センターにおいて、不登校や退学している若者の相談を受け付けるとともに、就労に向けた支援が必要な若者については、ハ王子若者サポートステーションにおける相談

令和7年度(2025年度)の主な取組

| 指標の実績 | 指標                        | 実績値             |               |               |               |               |               | 目標値             |
|-------|---------------------------|-----------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|-----------------|
|       |                           | 策定時<br>(2023年度) | 2025年度<br>実績値 | 2026年度<br>実績値 | 2027年度<br>実績値 | 2028年度<br>実績値 | 2029年度<br>実績値 | 目標値<br>(2029年度) |
| 1     | 生活保護利用世帯の中学生のうち無料学習教室の参加率 | 22.1%           | 17.3%         |               |               |               |               | 30.0%           |
| 2     | 生活に困っている世帯の新規相談受付件数       | 3,431件          | 3,417件        |               |               |               |               | 4,000件          |
| 3     | ハ王子若者サポートステーションにおける進路決定者数 | 32人             | 42人           |               |               |               |               | 70人             |

自己評価

A~Dの評価をした主な理由や課題感を記載しています。

B

「はち☆スタ」の運営や、はちビバ等を活用した相談・居場所づくり、子ども食堂等の地域団体への支援を通じて、身近な地域で支援につながる環境整備を進めているほか、生活困窮者自立支援相談窓口やはちまるサポートにおいて、生活に困難を抱える世帯からの相談に対応し、関係機関と連携しながら自立に向けた支援を行っています。また、就学援助費や奨学金、住宅支援などの経済的支援、若者総合相談センターや若者サポートステーションを通じて就労・進路支援を実施し、貧困の連鎖防止に向けた取組も進めています。一方で、学習支援の参加率については目標達成に至っておらず、支援が必要な子ども・若者に情報が届くよう、相談窓口も含めた取組のさらなる周知が課題となっています。

評価

児童福祉専門分科会による評価

今回いただくご意見をもとに、今後記載していきます。

今後の取組

今回いただくご意見をもとに、今後記載していきます。

## 令和 8 年度（2026 年度） 分科会開催日程

| 開催日          | 予定会議           | 会議室     | 時間          | 主な議題（予定）                                                         |
|--------------|----------------|---------|-------------|------------------------------------------------------------------|
| 5 月 15 日(金)  | 第1回            | 801 会議室 | 18 時から 20 時 | 令和 7 年度(2025 年度)第二期子ども・若者育成支援計画<br>点検評価報告                        |
| 6 月 12 日(金)  | 第2回            |         | 18 時から 20 時 | 令和 7 年度(2025 年度)第二期子ども・若者育成支援計画<br>点検評価報告                        |
| 7 月 10 日(金)  | 第3回            |         | 18 時から 20 時 | 令和 7 年度(2025 年度)第二期子ども・若者育成支援計画<br>点検評価報告                        |
| 8 月 7 日(金)   | (第4回)          |         | 15 時から 17 時 | 令和 7 年度(2025 年度)第二期子ども・若者育成支援計画<br>点検評価報告（予備日のため未開催、または第5回を繰り上げ） |
| 10 月 2 日(金)  | 第 4 回<br>(第5回) |         | 18 時から 20 時 | 子どもの権利保障に向けた検討                                                   |
| 12 月 18 日(金) | 第 5 回<br>(第6回) |         | 18 時から 20 時 | 子どもの権利保障に向けた検討                                                   |
| 2 月 19 日(金)  | 第 6 回<br>(第7回) | 調整中     | 18 時から 20 時 | 子どもの権利保障に向けた検討                                                   |

※ 「子どもの権利保障に向けた検討」につきましては、3回を想定しておりますが、2回になる場合もあります。

※ 児童福祉専門分科会以外の各部会は、別途開催となります。